

原 著

# 黒毛和種子牛の脛骨骨折 10 症例に対する プレート固定術の治療成績

樋口 徹<sup>†</sup>      宮越大輔      佐藤正人      海道磨里  
加治原彩子      後藤忠広

北海道農業共済組合みなみ統括センター日高支所家畜高度医療センター  
(〒 059-3105 日高郡新ひだか町三石東蓬莱 200)

(2023 年 3 月 6 日受付・2023 年 11 月 6 日受理・2024 年 3 月 6 日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77\\_e27/\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77_e27/_article-char/ja)

## 要 約

2016～2020 年までの間に黒毛和種子牛の脛骨骨折 10 症例に対し、プレート固定手術を行った。うち 1 頭はプレート抜去後に再骨折し、再度プレート固定手術した症例であった。症例牛は 1 日齢から 4 カ月齢で、体重は 30～105 kg であった。用いたプレートは、ダイナミックコンプレッションプレート (DCP) 3 頭、DCP 2 枚が 2 頭、ロッキングコンプレッションプレート (LCP) 1 頭、LCP と DCP 4 頭であった。内固定が崩壊した 1 頭以外は治癒し、本来の飼養目的に復した。適切な長さタイプ、ダブルプレート固定法の選択と、正確な手技の適応が重要と思われた。子牛の脛骨骨折はプレート固定術により、併発症としての変形癒合、骨癒合不全、成長遅延が少ない良好な治癒が得られた。——キーワード：子牛，黒毛和種，プレート固定術，脛骨骨折，治療成績。

-----日獣会誌 77, e27～e32 (2024)